



泰山木

ホームページ

<http://www.city-takaoka.jp/bakurou/index.html>

突き動かすもの

校長 新井 郁夫

6年生は残りわずかになった貴重な時間を校舎内外の清掃活動にあててくれている。1回目は自ら選んだ場所を心込めて清掃してくれた。はばたき広場に建立してある“校歌碑”を一生懸命磨いている児童がいた。冷たい風の吹く中一人で、額に汗して黙々と磨いていた。しばらくすると煉瓦に彫ってある歌詞が浮かび上がってきた。その児童はとても嬉しそうに少し離れて眺め、歌詞を口ずさんでいた。どうして“校歌碑”を選んだか聞くと、これはお父さんがこの学校を卒業するときにみんなで作ったものだからと、答えてくれた。

一方、“命の池”では、3～4人の児童が水路を清掃していた。冷たい水の中の石を出し、底に溜まった土砂や落ち葉を取り除いていた。どうして池を選んだか聞いてみた。5年生の時、ホタルの幼虫を教室で水槽に入れ飼育していたことから話し始め、水槽ではなく、もっと広いところで飼育・観察したい、大きな池がほしい、との思いで取り組んだ。これは2年かけてぼくたちの夢を実現したからだと答えてくれた。

このほかでも体育館やトイレなど思い思いの場所の清掃をしてくれた。子どもたちの表情は明るく、真剣で目が輝いていた。何が子どもたちをこんなに突き動かしているのか。6年間、体とおして多くのことを学び、よい思い出がたくさんできたことなどからくる“学校大好き”という学校への愛着の心の表れである。

校歌碑には昭和44年度卒業生一同と刻まれ、約40年の歳月が経っている。卒業を前に、自分をずっと見守ってくれた感謝と、これからもずっと博労の子どもたちを見守ってほしいという願い、それにも増して、自分の親が造ったことに誇りを感じている。

また、“命の池”を手がけた56名の今年の卒業生が親になったとき、きっと自分の子どもに博労小学校で過ごした思い出を語るであろう。この繰り返し、博労小学校を誇りに思い、この地域に生まれ、育ててよかったと感じる子どもたちを巣立たせる。

“やるときはやる”という博労っ子の心意気を見、そこに校訓である“最善の努力”、“真剣なる実行”を身を以て示してくれた。

子どもたちの素晴らしい感性をはぐくんでくれた親、指導にあたっている先生方に感謝し、私をはじめ本校の教職員皆を突き動かしてくれる子どもたちに敬意を表する。